

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-イ	文化の担い手の育成	施策	② 創造的芸術文化の発展を担う人材の育成
			施策の小項目名	○県立芸術大学の教育機能の充実
主な取組	県立芸大インキュベート機能強化支援事業			
対応する主な課題	④幅広い芸術を専門的に学ぶ教育機関である県立芸術大学については、アーツマネジメントなど芸術に関連した分野への就業又は起業を促すカリキュラムの設置などにより、教育機能を充実していくことが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
芸術活動の継続を希望しながらも、生計面等の問題に直面している大学院生や卒業生等に対して支援を行い、芸術家としての自立を促す芸大のインキュベート機能を強化する。また、在学生の芸術に関連した分野への就業又は起業を促すカリキュラムの設置などにより、教育機能を充実していく。						
実施主体	県	芸術家等の養成を目的とした研究活動の支援				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施	—	—	—	—	—	—		OR元年度： 研究活動継続を希望する卒業生で要件を満たす29名を、共同研究員として受入れた。学生自ら進路を設計する等の授業科目を設置し167名が受講した。 OR2年度： 引き続き、研究活動継続を希望する卒業生を共同研究員として受け入れるほか、就業又は起業を促すカリキュラムの設置などで教育機能を充実させる。
予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		OR元年度： — OR2年度： —

様式1(主な取組)

活動指標名	芸術家等の養成を目的とした研究活動の支援				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	30名 (卒業生受 入人数)	29名 (卒業生受 入人数)	29名 (卒業生受 入人数)	29名 (卒業生受 入人数)	—	100.0%	0	順調	大学院修士課程修了以上の研究業績を有する等一定の要件を満たし、研究活動の継続を希望する卒業生29名を、附属研究所共同研究員として受入れることで研究活動を支援している。また、職業への興味・関心を高める科目や、学生が自らの進路を設計する科目を設置してしており、令和元年度は167名の学生が受講した。
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—	—	—	—	—	—				芸術家等の養成を目的とした研究活動の支援について、研究活動の継続を希望する卒業生29名を附属研究所共同研究員として受け入れ、附属研究所教員らと共同研究を実施した。
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			また、卒業後の進路、職業への興味・関心を高めることを到達目標とした授業「初年次セミナー」を開設した他、将来芸術家等を志す学生が自ら進路を設計していく「芸術とキャリアデザインⅠ」を開設しており、令和元年度は167名の学生が受講した。
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<p>・引き続き、学生自ら進路をデザインするカリキュラムを設置するほか、就職支援アドバイザー等を活用し、小さい大学ならではの学生一人ひとりに対するきめ細かな進路相談等を行う。</p>						<p>・就職支援アドバイザーを活用し、キャリア教育担当教員や外部就職支援機関（ハローワークや県キャリアセンター等）と連携することで、各学生の就活状況の情報共有を図り、多角的な観点から学生支援を行った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・卒業後の進路として、継続して創作活動・演奏活動に取り組むため、アルバイトなど「短期就労」を進路として選択する学生も存在する。

○外部環境の変化

・沖縄労働局が発表した令和2年1月末時点での就職内定状況によれば、新規大卒者の県内での内定率は57.9%で前年同月比2.2ポイント増加したのに対し、県外就職内定率は62.7%で3.8ポイント減少している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・県立芸術大学ならではの大きな環境と文化の中で育まれた、ものづくりに対する真摯な思いとこだわりや豊かでしなやかな感性と創造性が社会の中でもさらに紡いでいけるよう、一人ひとりが納得度の高いキャリア形成に繋がるよう、きめ細かなサポートを行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き、学生自ら進路をデザインするカリキュラムを設置するほか、就職支援アドバイザー等を活用し、小さい大学ならではの学生一人ひとりに対してきめ細かな進路相談等を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-イ	文化の担い手の育成	施策	② 創造的芸術文化の発展を担う人材の育成
			施策の小項目名	○県立芸術大学の教育機能の充実
主な取組	芸大就職キャリア支援事業			
対応する主な課題	④幅広い芸術を専門的に学ぶ教育機関である県立芸術大学については、アーツマネジメントなど芸術に関連した分野への就業又は起業を促すカリキュラムの設置などにより、教育機能を充実していくことが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
県立芸術大学学生が希望・期待する職種・業種の掘り起こしのほか、卒業生が就職した企業を中心に、隣接・派生する関連企業をターゲットとして就職先企業の拡大を図り、卒業生の経験談をまとめる、キャリア教育に資する効果的な進路指導データとして活用する。						
実施主体	県	芸術文化に特化・関連した職種・業種にターゲットを絞った求人開拓				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名	沖縄県立芸術大学就職支援事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： クリエイティブ系を中心に各種企業（60社）の訪問等による求人開拓。学内合同企業説明会を開催（2回・20社参加）。就活ブックの作成。	
県単等	委託	—	—	6,880	6,888	8,498	8,577	県単等	OR2年度： 引き続き求人情報の収集、並びに学生・教員向けセミナーの実施や学内合同企業説明会を通じて、就職活動を支援する。	
予算事業名	芸大就職キャリア支援事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： —	
県単等	委託	5,602	6,797	—	—	—	—		OR2年度： —	

様式1(主な取組)

活動指標名	芸術文化に特化・関連した職種・業種にターゲットを絞った求人開拓				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	3324社	3301社	100社	40社	60社	—	100.0%	8,498	順調	クリエイティブ系企業（デザイン、印刷業、Web・映像等制作、音楽関連等）を中心に60社の企業を訪問し、求人情報の収集及び学生の特性PRを実施。また、学内合同企業説明会を2回開催（20社参加）。
活動指標名	—				R元年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—	—	—	—	—	—				企業訪問等は目標としていた60社を達成した。学生の特性にマッチングできる企業を参集した合同企業説明会は2回実施し、延べ数で企業20社（県内10社、県外10社）が参集した。また、合同企業説明会に合わせワークショップを開催し、学生参加数は延べ50名であった。更に、芸大生のための就活ブックを作成し、全学生へ配布した。加えて、個別のセミナーや企業説明会の実施した。
活動指標名	—				R元年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・大学が設置している就職支援アドバイザーと連携し、企業訪問を通じて得られた有益な情報を共有する。 ・学内合同企業説明会は、クリエイティブ系を必要としている県内外の企業に参加を促すことで、就職先のマッチングを図る。 						<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援アドバイザーを活用し、キャリア教育担当教員や外部就職支援機関（ハローワークや県キャリアセンター等）と連携することで、各学生の就活状況の情報共有を図り、多角的な観点から学生支援を行った。 ・合同企業説明会には県内・県外から芸大の特性に合った企業を招へい。前日に就活ワークショップを開催し、自己分析や自己PRの方法等について支援した。また、「福祉と芸術」を題材にした講演会を実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 県立芸術大学学生が希望する職種は、自らの専門性を活かせるような分野であり、一般職・総合職のような求人の多い分野ではないため、選択肢が限られてくる。
- ・ 芸術のプロを目指す学生にとっては、卒業後も技術を向上させていかなければならず、研究活動を継続するため、そもそも就職を考えていないことがある。

○外部環境の変化

- ・ 有効求人倍率が前年同月と比べ下回っている。(平成31年1月 1.23倍→令和2年1月 1.11倍)

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 学生の専門性に見合う企業に関する情報を把握し、学生への周知を行う必要がある。
- ・ 学生の希望に添った就職講座の実施、企業の個別説明会を開催する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 引き続き、大学が設置している就職支援アドバイザーと本事業の就職コーディネーターが連携し、事業を通じて得られた有益な情報を共有する。
- ・ 引き続き、学内合同企業説明会は、クリエイティブ系を必要としている県内外の企業に参加を促すことで、就職先のマッチングが図られる取組に繋げていく。